創刊明治卅五年三月廿七日●明治卅五年三月廿七日第三種郵便物認可●每月二回（五日廿日）發行●電話番町千七百三十五番●同五百廿番●通送無料●振替貯金口座壹壹弐一番

愛國婦人

●定價一部三錢五厘●半年分金四十二錢●一年分金八十四錢●廣告料一行金六十錢●發行所東京麴町區牛ヶ淵公園內愛國婦人發行所●發行兼印刷人山澤俊夫●編輯人竹內貞三

明治四十三年七月廿日發行

July. 20th. 1910.

主張

討蕃戰

臺灣生蕃の勦討事業は、今春の帝國議會に於て、五ヶ年計畫の繼續費を支出すること、なりしが、其の結果と見え、總督府にては、去る五月五日以後、生蕃中にて最蠻最強と聞えたる、ガオガン蕃社に手を着け、先づ、警部巡査及隘勇よりなる一隊に、守備兵の援助をも借りて、首尾能く目的を達する筈なりしも、却つて頑強なる敵の襲來に遇ひて、非常の苦戰に陷り、更らに、同月二十一日を以て應援に赴きたる奥村聯隊さへも、尠からぬ死傷者を出して、戰は竟に不首尾に終りたるもの、如し。斯くて其後の形勢も、目下のところ餘り首尾能しとも見えず。如何にも殘念千萬の事なり。

抑も臺灣嶋の蕃族中に、生蕃と熟蕃の二種あり、熟蕃と稱するは、既に漸次化熟して支那民族と雜居し、普通行政の治下に在るものにて、是等は耕農、狩獵又は他の勞働に從事しつ、あり、最早何等危害の虞なきものなり。然るに生蕃に至りては、全然之れと異り、中には馘首を以て無上の榮譽とし、顏面に刺墨せるアタイヤル族の如きあり。其他、サイセット、ヴオタム、アミス、ピユマ、ツアリセン、パイワン、ヤアミの八種族あり。中には稍化熟せるものあるも、多くは蠻性尙未だ脫せず、勇猛にして而も兇惡至極のものなりと云ふ。殊に今回總督府が討伐に着手したるガオガン蕃は、前記アタイヤル族中の一大强蕃にして、この族は、實に臺灣島の北地、約五百方里の地域を根據とし、約三萬の人口を有すと稱せらる、中々の大蕃社なり。

この蕃族に對し、巍乎たる中央山脈を橫斷して、蜿蜒西北に走る、百二十餘里の隘勇線を保持するさへも、如何にも至難の業なるべく思はる、を、且は暑氣百度の瘴癘を犯しての戰と云ひ、且は深山幽邃中に於て、荊棘は人を沒し、道路とては無く、運輸は不自由なり、而して荊棘中に隱れて來る虎や狼が、毒牙の代に銃器を用ひ、其上進退驅引に術略を執るの知識を有するものを相手としての戰爭なれば、之れが討伐に從事するもの、艱苦は、內地人の想像以上なるべし。

目下討伐中の生蕃人風俗

親しく戰地に臨みたる、臺灣總督府副官穩明寺陸軍少佐が、曩に『生蕃討伐隊苦闘の狀況は、旅順攻圍戰と相似たり。而して、軍隊の艱苦缺乏は正に之れに超ゆるものなり』と言はれたる、誠に然かあるべしと想察せらる、なり。

されど吾人は、臺灣總督府が、一二小頓挫に屈せず、益進で豫定の勦討を全うし、蕃賊を殲滅せらる、の期ある事を確信す。然れども亦夫れ迄には多大の費用は勿論多くの軍隊を犧牲とするの覺悟なかるべからず、費用の嵩むは尙忍ぶべし。か、る蠻族の手に忠勇にして且親愛なる同胞の血を流さしむるは、誠に忍ぶべからざるなり、併も國家の爲めに此忍ぶべからざるの情を忍ばざるべからざる吾人は、同時に討伐隊に對して重大の義務ある事を覺知せざるを得ず。重大の義務とは、日淸、日露の兩戰役當時の如く、國民擧つて及ぶ限りの後援を爲し慰藉を與ふる事なり。

然るに、討蕃の擧たるや、內亂にあらざるは申すまでもなく、將亦外患にもあらず。隨て、社會の耳目が、今日迄稍冷淡に過ぐるかの觀あり畏くも　天皇陛下が討蕃隊の苦闘を御軫察あらせられ同隊御慰問の爲め中村侍從武官長御差遣の御沙汰ありたる位なるに拘はらず富豪三井氏が五千金を提供し、本會臺灣支部の手を經て、慰問の料に供したる外、未だ多く後援の企あるを耳にせざるは、吾人が大に遺憾とする處なりとす。

さればとにはあらねど、愛國婦人會は茲に討蕃隊慰問の主唱者となり下記の如く慰問袋を募集せられんとす。吾人は此の美擧が、討蕃隊の行動と共に、多大の成功あらん事を熱望す。されど又吾人は、讀者諸姉に向つて『希くは此擧に贊同あれ』とは言はず。贊否は各個人の意志に存す。而して、賢明なる讀者諸姉は、寸時たりとも國家に對する自己の責務を失念するが如き人にはあらずと深く確信するものなればなり。

●慰問袋募集

▲臺灣惡蕃討伐隊へ寄贈

今般臺灣總督府に於ては本年より向ふ五ヶ年繼續を以て生蕃討伐の大計畫ありて既に其第一着手として新竹に隘線を進め現下宜蘭方面、殆んど道路なきの疆に討伐隊を派遣し瘴癘を犯し暑氣九十度の地に於て兇蕃と闘ふ其從事者の勞苦實に想察の及ぶ處にあらず去る六月下旬に於ては川和田大尉以下數十名の戰死傷者ありしが如き實に痛惜の至に堪へず茲に本會本部主唱者となり討蕃慰問を目的とし左の手續に依り慰問袋を寄贈せんとす同情の姉妹方奮つて寄附あらんことを希ふ

▲手續

一、慰問袋は討伐五ヶ年繼續に付狀況に依り數回之を募集す。

一、第一回募集は來る八月十日を締切とす。

一、當地より現品輸送は不便なるのみならず物品によりては損傷の虞あるを以て慰問袋一個の料金二十五錢と定めて現金の寄附を望む。
但本部は該寄附金を臺灣支部へ交附し適宜の處分を委託す

一、各地方に在りては最寄の本會支部へ申込まれたし

一、慰問袋料金は本會第二部長杉原全徳宛發送せられたし。

一、寄附者は可成金額及住所氏名を明記せられたし。

明治四十三年七月

愛國婦人會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

譚叢

夏季休暇中の心得

◎學習院女子部長 松本源太郎

私の學校では、夏季休業に當りまして、種々生徒に訓諭致しますが、其の要點を書きしるした左の樣な心得書を刷物として、夫々學生の保護者に頒ちまして、學校と家庭と相提携し相協力して、學生を指導するやうに力めて居ります。

●夏季休業中の心得(四十二年)

▲第一躾方のこと

一 休業を利用して出來得るだけ家事向の手傳するやう注意すべし。
一 よく長上の命を守り弟妹には格別親切にすべし。
一 衣類、書物其他手廻りの物を取散らさぬやうにすべし。
一 衣服、頭飾、肩掛、蝙蝠傘、履物を初め總ての日用品は質素堅牢を旨とし流行を逐うて華美に流れぬ樣注意すべし。
一 稗史小説類は長上の檢閲を經たるものゝ外一切讀まぬ樣にすべし。
一 他人の批評がましき言語動作を愼むべし。
一 乘車はなるべく見合せ、つとめて徒歩すべし。
一 途上又は車中にて高聲に談話せぬ樣すべし。
一 夕景及夜間の外出はなるべく見合せ、止むなき場合には伴人を連れて出づべし。
一 旅行先又は海水浴場若くは温泉場等にありては、とかく放縱に流れ勝なれば、事每に我身を省み、決して當女學部の學生たる品性を傷けぬやう格段に注意すべし。

▲第二衛生のこと

一 每朝成るべく深呼吸、冷水摩擦を行ひ且つ常に運動を怠るべからず。
一 傳染病ある家又は其近所に立寄らぬやうにすべし。
一 夜は早く寢れ、朝は早く起き、晝寢夜更は決して爲すこと勿れ。
一 飲食物に注意し殊に間食、寢前の飲食は之を避くべし。
一 脫ぎたる衣類は一旦風にあてゝ後始末すべし。

▲第三學課復習のこと

一 每夜日誌に其の日の重なる出來事を記すべし。
一 每日午前凉しき中二時間乃至三時間各學科の復習を爲すべし。

是れは專修科及中學科學生の心得でありますが、單に休業中だけでなく、平素とても是等の諸點に注意しなければならぬ事は申す迄もありません。唯就中夏季休業中に一層注意を要する事項を掲げた次第であります。

◎女子高等師範學校長 中川謙二郎

▲休暇と云ふと、仕事を爲した後での休息とか、夜床に寢るとか云ふのと、同一意味に解釋して居る人もあるが、自分の考では、夏季休業は、唯活動の方面を變ずる爲めの休暇と解したいと思ふのである。

▲此の意味からして、敎師には近頃夏期講習といふのがある。昨日まで敎室に立つて生徒を敎へ導いた者が、一轉して敎へ導かるゝ人となり、長い暑中を暮すのは、苦痛かも知れぬが、此の如き境遇の變化に大なる趣味が現はれるものである。

品川沖

▲青年子女に於ても、暑中休暇をこの意味により善用せられん事を希望する。轉地を爲し、或は山河を跋涉して國民の身體を練るのも宜しいのであるが、女學生の如きは、この期間を利用して、複雜なる家庭を諳り、家庭の實際に馴れて貰ひたいと思ふのである。

▲現今の女子敎育の缺點は、實地の練習の不足な事である。學校で、如何に家事練習に力を注いでも、滿足に其知識を與へる事は到底不可能事であるから、之れは、各自家庭に於て十分注意をして貰ふ外はないのである。然るに、家庭によつては、娘は學校にやつてあるから家庭で躾るに及ばない、と何處までも學校を過信して居る人があり、又甚だしきは、家庭內で子女に何事もさせないのを名譽の如く心得て居る人もあるが、斯の如きは、大なる心得違ひであつて、前述の如く、學校に於ける敎育だけでは、未だ家庭に於ける實際の出來事を、十分に處理し行く迄に熟するものではなく、又家庭によりて特種の事情が含まるものでもあるから、幸の暑中休暇を利用して、學校敎育の不備なる點を補ふ爲めに、此間十分家事の練習を爲せる事が必要と信ずるのである。

◎三輪田高等女學校敎頭文學士 三輪田元道

▲いよ〳〵學校も暑中休暇となつて、生徒と別れる際には、以上述べ來つたやうな事を、生徒に注意したいと思ふ、蓋し以上は誠に平々凡々の事柄で、誰もよく承知をして居る事であるが、知るは易いが、行ふとは區別があつて、知ると行ふのはなか〳〵困難である。自分は家庭にも、子女にも、前述のことを實際に行つて貰ひたい爲めに此言をなすのである。

△避暑休暇中の心得として、先づ第一に注意したきは、奢侈に流れず、質素に生活するといふ事でしやう。世には往々身の程を忘れて贅澤なる行爲をなす人がある、相當地位ある婦人の如何はしき犯罪事故の近時新聞紙に現はるゝのは、畢竟その餘弊に外ならずと信じます。誠に奢侈は犯罪の基、恐れ戒めねばならぬ。

▲夏期は一般に怠惰に流れ易い時節なれば、特に規則正しき生活を爲すを要します。即ち復習の時間、家事手傳の時間、散步遊戲の時間等大略行動の立案をなし、勇氣を以て暑さに打勝たねばなりません。

▲學校に學び得たる知識を、出來得る限り多く家庭の實際に應用し、練習する事を忘れてはならぬ。

信濃の天龍峽

▲避暑旅行は、必要に應じて爲すがよい。流行的に海濱又は温泉場などに行くは宜しからず、寧ろ自宅にて夏を過ぐす方、却つて好ましく思ひます。

▲夏期は男女の關係が稍もすれば亂れ易き折なれば、互に禮を以て相交り、苟も愼の心を忘れてはならぬ。これは、何でもなきやうなれども、夏は特に注意あらん事を望みます。

▲兎も角も、大切なる眞理は、平凡なる注意の中に存するものである。

◎山脇高等女學校長 山脇房子

▲暑中休暇中になすべきこと、學校では一週に五六時間しかない裁縫を、暑中休暇中は每日二三時間も稽古するとか、一週に一時間しかない習字を每日三十分間なり一時間なり勉強して、書簡文の熟達をはかるのもようございます。また平生は學課がいそがしい爲めに家事の練習も出來ず、母親の手傳も出來なかつたから、暑中休暇中は母親を休まして、自分が主婦の代理として臺所へ出で〻働くといふのも、誠によいことでございます。

▲休暇の間に退步する人、暑中休暇中は萬事が不規律に流れ易いものでありまして、折角平素養ひ來つた良習慣を此間に悉く打毀すやうな情ない人もありますが、暑中休暇と云つても唯學校が休みと申すだけで、人として守るべき道、人としてなさなければならぬことは、何時でも、如何なる場所でも、人として生ける間は決して〳〵休暇はない筈でありますから、暑中休暇中も日常の生活は平生と少しも變ることなく、何時も規律あり嗜みある立派な婦人としての體面を保たなければなりません。

▲避暑に行かねばならぬ身體、平生嚴格な規律正しい生活をして居る人は、何時何處へまゐりましても、やはり行儀正しうございますけれども、これに反して不規律な生活をして居る人は、かゝる場合に層一層だらしなくなつて、他人の輕侮を招くことが多くあります。人は心の紐のゆるんだ時得て失敗するものであることをよく〳〵記憶しなければなりません。學校の生徒に向つても、暑中休暇前に『兩親が避暑に連れて行つてあげると仰しやるなら御一緒に行くのはよいが、こちらから親に向つて避暑にお連れ被下いとねだつたり、友達同志で避暑行きの相談をしたりなどして避暑に行くことは決してしてはなりません、東京位の夏の暑さが凌げないやうでは困ります、何事も物は諦めが肝心で、暑いけれどもまだ〳〵これよりもつと暑い國もあるのだと思つて、ドン〳〵仕事を爲てさへ居れば、苦しいものではありません』と申して居ります、世間には夏避暑に行かねば冬になつて風邪をひき易いなど申す人がありますが、かやうな身體になつて了つたら大事ではありませんか。(文責在記者)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

聖上陛下前田侯爵邸行幸

七月八日、日旺んに氣滿し、此日本郷元富士町なる前田侯爵邸は畏くも聖上陛下行幸の光榮に浴したり、いざや漏れ承るまゝに其日の光景を書き記さむに

◎龍車到る　當日陛下には黒色肋骨附の大元帥服を召させられ簡單なる御遊幸式の鹵簿に德大寺侍從長陪乘申し供奉一同を隨へさせられ午前十時半御出門、豫定の順路を經て近衞軍樂隊の奏する君ケ代の響嚠喨たる裡に龍顏麗はしく御着輦遊ばされたり。是れより先き日野西、石山兩侍從の御先着を俟つて前田家當主陸軍中尉侯爵利爲公は中尉の正裝に同夫人漢子氏は薄藍色の洋裝を爲して新築西洋館の御車寄せに立ちて又侯爵母堂以下親戚一同は玄關左側に立ちて恭しく奉迎さる。時正に午前十一時。

◎拜謁　陛下には主侯の御先導にて先づ西洋館内の便殿に入御通り懸けの際親戚なる岡部長職子。同夫人坻子氏(前田侯爵大伯母、本會々長)二條基弘公、同夫人洽子氏(前田侯爵大伯母本會評議員)近衞文麿公、同母堂貞子氏(前田侯爵伯母本會理事)鍋島直大侯、前田侯爵母堂(父)同夫人榮子氏(本會理事)其他親戚方の嫡男並に同夫人家族等に謁を賜ひ便殿より御座所に成らせられてより當主侯夫妻母堂を始め同家一門の利同伯(舊富山藩主)同夫人淑子氏利邑子(舊大聖寺藩主)同夫人社子氏、利定子(舊七日市藩主)同夫人濟子氏、同母堂春子氏、利功男などに單獨拜謁を賜ひ夫れ夫れ御下賜品あり、御少憩中茶菓捧呈の後主侯より俊朝筆萬葉、北野卿の太刀一口及舊藩地の名產を獻上され、正午食堂に入らせ給へば茲に懸けたる西洋畫はコーランを始め西洋大家の名作にして陛下は之を御覽せられつゝ御晝餐を召し給ふ。

◎天覽能　かくて陛下には御晝餐後西洋館より日本館に玉歩を進めさせられ御座所に着御、御前演能を御覽せらる、能は寶生九郎の統轄の下に寶生、觀世、金春の太夫をして演せしめ俊寛、熊坂、土蜘蛛の三番と外狂言二番を御覽に供し奉る。

◎叡覽品　能樂御覽濟の上陛下には日本館内御通り懸けに別室にて揮毫を終へし川端玉章、荒木寛畝、福井江亭、池上秋畝、川端玉雪、野口駿尾六畫家の繪畫と共に同館内に所狹き迄に陳列せる同家珍藏の左の品々を御覽あらせらる。

伏見、花園、後醍醐三朝の宸翰、從三位菅原文時筆御室御物實錄、皇太后宮大進物、藤原清輔筆古今和歌集、贈正一位楠正成櫻井驛訣別圖幅、關白秀吉高山國に與ふる圖、秀吉三國處置大早計、伊勢内外宮神寶式目並に神寶圖、左近將監土佐行長筆天神緣起、左大臣源俊房筆水左記、攝政藤原兼房太刀及平緒、太傳大光世太刀、太郎作正宗刀古備前助眞刀、一文字助光眉光刀、内藏權頭小野道風筆唐白居易の詩、贈正一位楠正成與判文書征夷大將軍足利尊氏等合筆の寶積經

◎天杯下賜　時漸く移りて五時に至れば陛下には再び西洋館内の食堂に入らせられ御晩餐を召し給ふ、時に利爲侯、利同伯、利邑子、利定子、利功男の同家宗族の侯伯子男爵は畏くも天杯下賜の光榮を荷はる、御晩餐中食堂内にては又西幸吉に琵琶を彈せしめて御聽に入れ奉る。

◎還幸　天然人工の美觀を盡し排從亦洵に宜しきを得たれば興は彌增しに增し時は更に移りて七時に及べり陛下はかくて滿室の電光花と輝く頃漸く還幸仰出されたり、惟みるに陛下には絕えて玉體を勞うし給はざるに只此日のみ斯くも久しく臣下の邸に過させられ御名殘を惜ませらるゝは啻に前田家一門の光榮と感喜のみにあらず上御一人の御安泰を祈りて已まざる臣民一般の實に畏惶して喜び奉る所なり。

皇后陛下の雨中行啓

聖上陛下の行幸あらせられしより二日を經て前田侯爵邸は更に又皇后陛下の行啓を奉迎したり、藪、山川兩權掌侍、樹下權命婦、岡本、古谷、津田、星野、小川の女嬬先着し陛下には午前十時御出門高倉典侍御陪乘、小倉權典侍、小池權掌侍、生源寺權命婦、香川太夫、山内主事、岡侍醫頭以下の供奉を隨へさせられ同十一時三十分五月雨蕭々たる裡に御着あり、侯爵、同夫人其他の奉迎行幸の折と異らず陛下にはクリーム色の御洋裝に銀白のボンネットを戴かせられ君ケ代奏樂の裡に御下乘あつて奉迎の人々に懇篤なる御會釋を賜ひ、侯爵の御先導にて洋館階上の便殿に着御、先づ侯爵、同夫人同母堂に拜謁を賜ひ夫々御下賜品あり亞いで侯爵より圖書親王筆古今集一册、藤花蒔繪書棚一個外に舊藩地名產の御菓子を奉呈あり、御少憩、十一時日本館に成らせられ陳列品御覽あり其の通路にて寺内、平田、齋藤、後藤、小松原、岡部、渡邊各大臣夫人、德川公夫人、二條公夫人、一條公夫人、近衞公母堂、鍋島侯夫人、細川侯夫人、前田子爵夫人などに謁を賜ふ、陳列品は何れも前田家秘藏の品品にていと興がりて御覽ありたる中にも當家五世の主松雲公著の南朝實記(貴重の史料なりと云ふ)同公創意の百工比照、守信筆櫻井訣別圖、一本種(當家四世撰進)等は最も御目にとまり親しく御手にとりて御賞贊、其他能樂衣裝等を御嘉賞ありて更らに樓上の大廣間と云ふに成らせられ貞一の手品を御覽せられ十二時半日本館御座所にて御晝餐を召され御休憩後能樂竹生島、山姥、正尊の三番及二番の狂言を御覽あらせらる、四時よりは玉章、寛畝、玉雪、江亭、秀畝、駿尾等の席畫御覽あり、更らに西洋館階上に復御、三曲合奏(吾妻獅子、の上、松竹梅)を聞こし召さる、御晩餐には前記拜謁の各夫人の外に香川太夫、高倉典侍其他宗親族家各夫人に御陪食仰付けられ尚薩摩琵琶(吉野落花、日本武尊東征)の二曲を襖を隔てゝ聞こし召され始終御滿足の御模樣にて午後七時一門奉送の中に還啓遊ばされたり。

東宮殿下同妃殿下の行啓

各宮殿下御成

連日の霖雨や、霽れ渡りたる十三日皇太子殿下同妃殿下には御同列にて午前十時青山御所御出門、一條侍從長、田内、本多兩侍從、田村武官、片山侍醫、吉見、生源寺の各女官を隨へさせられ同三十分前田侯爵家へ行啓遊ばさる。奉迎前日の如く靜々と御召の馬車より降り立ち給ふ皇太子殿下には御略裝の中將服、妃殿下は純白の御洋裝に同色のボンネットを戴かせられ先づ侯爵御案内を承り樓上便殿に入御、茶菓の献上を受けさせられ御少憩あり、是れより先御來着あらせられたる朝香宮鳩彦王、同妃殿下、竹田宮恒久王、同妃殿下、梨本宮守正王妃殿下、北白川宮成久王妃殿下の六殿下に御對顏の後侯爵以下前田家一門の人々へ拜謁仰付けられたり。亞いで十一時侯爵の御先導日本館にて前田家より献上の品を御嘉納あり侯爵以下一門へ御下賜品を賜はり更らに小座敷に陳列せる什寶御台覽引續き庭園御散策植木及兼六公園模型御覽築山を御一周遊ばさる(右記兼六公園模型は石川縣工業學校長が特に製作したるものにて大さ二間四方あり頗る精巧なるものなり)再び洋館に復らせられ眞龍齊貞水の講談「木村長門守の堪忍袋」一席御聽に達し、正午御食堂に成らせられ御晝餐を召さる前記各宮殿下、前田一門の人々、岡部子、同夫人、二條公、同夫人、近衞公母堂、鍋島侯、同夫人、一條侍從長、村木太夫其他供奉女官方に對し左の席次を以て御陪食仰付けられたり。

鍋島直大　近衞公母堂　二條公夫人　錦小路主事　一條侍從長　榊原典侍　前田利爲　前田漢子　二條基弘　鍋島侯夫人　村木太夫　前田朗子　生源寺政子　前田利功

前田利定　前田利同　岡部子夫人　恒久王殿下　鳩彦王妃殿下　守正王妃殿下　皇太子妃殿下　皇太子殿下　鳩彦王殿下　成久王妃殿下　恒久王妃殿下　岡部長職　吉見光子　榊原政敬

御晝餐後一時半に至り日本館御座所にて能樂御台覽(舟辨慶外狂言二番、紙洗、鞍馬天狗、)御間の物を召し上がられ次で樓上大廣間にて薩摩琵琶(吉野の落花)三曲合奏(梅、松竹)等の餘興御聽あり六時二十分更らに活動寫眞を御覽ありて午後七時といふに一同奉送裡に御機嫌麗はしく御還啓遊ばされたり。

▲皇后陛下御行啓當日前田家に於ける御陪食の模樣、席次其他委細は次號に掲載す

●前田家行幸啓餘聞

◎前田侯の謹愼　前田侯爵家にては愈々聖上の行幸仰出されたる日同邸内の靈社にて祭典を營み當主夫妻は齋戒沐浴して父祖の靈に告げ其盛典に依り此光榮を辱うするを謝し百事故障なかれと祈られたりと。

◎六萬圓の繪畫　室内全般の裝飾に善美を盡されたるは申までもなき事なるが特に洋館應接間に掲げられたる佛國畫伯ヤワマンの筆になるアムステルダムの絕景の額は故林忠正氏の遺品にして六萬圓を抛つて購はれたる無双の名畫なりと。

◎百萬圓の大建築　侯爵家の新館は石黒工學博士の設計になり五ケ年の星霜を經て去る三十九年末に竣工したるものなるが此の建築費六十萬圓裝飾費二十萬圓其他諸經費を計算すれば百萬圓以上に達するならんとは適に前田家。

◎日本一の能樂堂　又今度新に建築せられたる能樂堂は寶生九郎の設計に専門技師の智嚢を絞り二ケ月間の短日にて竣工されたるものなるが此の建築費のみにて七萬圓に及ぶ舞臺は全部白木造りにて神々しさいはんかたなくこれや日本一の大能樂堂なるべし。

◎庭園　廣濶にして壯美を極むる庭園は陛下殿下共に殊と御賞贊あらせられたるやに承るが、同庭園は侯爵家出入の庭師か一代の名譽として六十日間の短日間に必死に竣功したるものにて能く有數の巨木大石を集め雄大なる自然の山谷飛瀑を作り擬たびか迂回する池塘にはあやめの花紫白いろとりどりに艶を競ひ實に東京市中此山河あるかと驚かると云ふ。

◎祝賀會　去る十六日、前田家にては行幸啓記念大祝賀會を開かれたるが元老大臣以下五百餘名來會非常の盛會なりき。因に當日土方伯爵は

大君の行幸まちえて此殿の
光は世々にいやまさるらん

と即吟せられたり。詳細は次號を以て報導すべし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

（禁轉載）

（九）　◉桐壺

京都大學講師　池邊義象

（一）桐壺の更衣の、比翼連理のちぎりも、さだめなき世のならひとて、夢のあひだぞかなしき。

桐壺は源氏物語巻頭にありて誰も知ることなりこの更衣、君寵を受ること斜ならず、遂に源氏の君を生みたりしが、君三才の時更衣は病死せられたり。この段は卽この巻によりてつくれるなり。

（二）みじか夜の夢さめて、おもかげはなつむしの、みよりあまるおもひをば、いかで人にかたらむ。

なつむしは、夏の虫なれとも、こゝにては螢のことにいへり。されば、身よりあまるおもひに火をきかせたり、この段は大和物語によりたるなり、同物語のうたに『つゝめともかくれぬものは夏むしの身よりあまれるおもひなりけり』とあり、おもかげはなつむしといふに、面影は無しといふをきかせたり、即短夜に思ふ人を見し夢ははかなくさめてそのおもかげもなければ、身にあまる思ひはあれともいかて人に語らむとなり。

（三）秋の夜はふけゆき、月は西にかたふく、松風や波のおと鹿のこゑさひしき。

前に夏夜をいひ、こゝに秋夜をいへるなり、松風波の音鹿の聲など秋のさひしきかきりを集めいへり、まして月も西にかたふくあるをや。

（四）道しるべせしこぎみのなかだちにひかれて、ゆくへまよふかうつせみの、きぬのかをぞゆかしき。

この段は源氏空蟬の巻より出てたり、源氏の君、中川の宿にて空蟬に思をかけ、その弟なる小君を語らひて媒とし、屢々言ひよられしことあれとも空蟬靡き従はさりしことあり、道しるへとは小君の案内をいふ、ゆくへまよふかとは、空蟬とのかれ出てしにつきて、源氏の迷ひたまへるさまにや、きぬのかをりそゆかしきは彼の空蟬か衣のみ脱きおきて去りたるをいふなり、物語に『かへりにかのぬぎおけるきぬをとり出てたまふ、小うちきのいとなつかしきに、人香のしめりたる猶にくしと身ちかくつゝみて「うつせみの身をかへてける木のもとに猶人がらのなつかしきかな」とよみてこがれたまふ』云々とあり。

（五）たぞやこよひさよふけて、柴のとぼそをたゝくは、をのへおろしの音つれか、くゐなのつぐる聲々か。

誰人にかあらむ、夜更けて我が柴の庵の戸をたゝくは、あれは人にはあらじか、或は尾上おろしの風か、又は水鷄のたゝくにかあらむとなり、空蟬の來てたゝくおとをよそことにきく趣なり、紫式部日記に『たゝならじとはかりたゝく水鷄ゆゑ、あけてはいかにくやしからまし』金葉集雅光の歌『よもすからはかなくたゝく水鷄かな、させる戸もなきしばのかりやを』水鷄の鳴聲の戸をたゝく音に似たりといふことは、ふるくより云ひなれしことなり。

（六）青柳をかたいとによりて、なけやうぐひす、うくひすの、ぬふてふかさは、梅かえたの花笠。

古今集かへしものゝ歌に『青柳をかた糸によりて鶯の、ぬふてふかさは梅のはなかさ』とあるによれり、鶯の梅か枝に飛ひかよふさまを、梅の花笠を縫ふと見立てたるものなり、青柳は糸のことく風にみたるゝか故に、片糸によりていへるなり、この段の句なけやうくひすのとかされていひ、又縫ふてふ笠は梅の花かさとかされたるかその調へおもしろくきこゆるなり。

この一組は初段に桐壺更衣の君寵の夢のまなりしことよりおこして、惣て契りははかなく思ひ多きことをいひ、一轉して空蟬の操に及ぼし、濫りに戸をあけざることを述べて、終に梅の鶯の事に及べり、これ君寵をも頼むべからず、又あらぬ思ひに馳すべからず、有るべき處に有りて自然をたのしめとをしへさとすに似たり

◉衣服の洗ひかた

（四）　高山　繁

▲ホワイトシャツ、カラー、カフスの洗濯、糊附、鏝掛

（一）洗濯法　ホワイトシャツ、カラー、カフス等は糊が附いて居る爲め、釜で煮る際に、未だ熟練しない人は、釜の底に燒き附かす患がありますので、先づ洗濯物を熱湯に浸漬して糊を軟かにし、揉んで之を洗ひ拔ぎ、而して後、粉末石鹼十匁を水四升位に溶かしたる液中に投じ、十五分間位煮沸し、取り出して揉板の上にて揉み洗ひを爲し、能く洗滌し、絞りて直に糊附を爲すか又は一旦乾かして糊附を爲します。

洗濯を營業とするところでは、此手數を省きまして直に粉末石鹼の溶液で煮沸しますが、營業者は既にこの事に熟練して居ますから燒附かせるやうの事はありませんけれども、素人では手數を厭はない方安全であります。

（二）粘附法　吟生麩百匁に對し白蠟半匁を混じ、水は二升か三升位に致して、鐵釜に入れ、杓子か又は擂木で練りまはし糊が能く透き通る樣になり、且つ匙に取りてボタ〳〵と落つる位の度に練り上げた後に、盥に移し、稍冷へたところで洗濯物を入れ、諸所持ち替へて、糊を布地の間に揉み込み、後、板の上に敷きたる白木綿の上に右の洗濯物を延ばし、掌の腕に近いところで、洗濯物の上を擦り、糊の行きわたり居るか否かを檢べます、若し間に空氣の入り居ることがあつたらば、再び前の方法で糊を揉み込み、全く空氣なく、糊を以て充實しましたならば更に一方から擦りて糊を平均させます。

糊が充實し、且平均したところで、カラーならばボタン孔に糸を通して短冊のやうにして乾かし、ホワイトシャツならば胸部に小さき板を入れて十分揉つて後糊の附いてはならぬ處に糊があるならば糊を附くべき部分を疊み、糊を附けてはならぬ軟部を水に浸し、硬き部即ち糊の附くべき部分に水のかゝらぬ樣注意して洗ひ落し、斯くして後、能く其の部を絞り水を切り、シャツを倒に綱に吊して乾かします、十分乾きたらば取り入れ、霧を吹き、十分間放置しますれば、生乾きの程度に乾きて程よき濕りを帶びます、此時鏝掛を爲します。

（三）鏝掛法　七輪か又はストーブの上に鐵板を載せ其の上にて鏝を燒き、鐵板を清淨にし、鏝に白蠟を塗り。白木綿にて擦り、銹又は塵を拭ひ去り、尚清淨な白木綿の上で、全身の力を込めて鏝を壓して擦り動かします、鏝が既に清淨と爲り且つ十分に燒けたのを見たらば、適度の濕氣ある洗濯物を取つて鏝掛を爲します其の手續は次號に詳細説明します

記者申す、前號本欄にて白羽二重の洗濯法を掲載しましたが、右は記者の不注意から其順序を誤りたるもので、白羽二重の洗濯法は高山氏の說の如く、餘程熟練を要するものでありますから、之れは後日に廻して、今回はホワイトシャツ、カラー、カフスなどの手安い洗濯法を說く事と致します。

奥様!!!
夏季の家庭に必要なる
冷藏函
アイスクリーム製造器械
ビール冷シ器
其他御重寶なる飲食器具類は
是非新橋の
龜屋へ御尋ね遊ばせ!!!
電話は新橋（一一一二 一三六一）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●婦道の龜鑑

岐阜通信

▲賞勳局にて表彰せらる

岐阜縣土岐郡木曾村小木曾金十の妻ツギ(三六)は同村水野金作の長女にして去る二十九年中年齡二十二にて今の夫金十に嫁したるが當時金十の本家は其の實父母及の實兄金四郎夫婦と三人の兒女ありしが實母サト(七九)は性來頑冥且つ剛愎にして人道の何物たるを解せざるより近隣は勿論同地方にてはサトを呼ぶに曾木の惡婆或は鬼婆を以てし之を爪彈せざるものなき程にて家人の動作に就ては少しも假借するなく口汚く罵り金四郎夫妻亦た之れと相下らず爲めに其の家庭は常に風波の絶間なく一家恰も仇讐に異ならず近隣のものは之を見兼ねて折々異見を加ふれども空吹く風と受流し一向に聞き入る事なきよりいづれも愛憎をつかすに至りしをツギは嫁ぎし以來日夜之を悲み何んとかして老母サトを慰さめ一家の幸福を得んと己等分家の身分なるにも拘はらず或日夫金十に説きてサトを自家に引取り孝養を盡さんとせしも金十も己が生の親なれど其の非道の性質を知ると家計の豊かならざることゝ加ふるに當時既に一女を擧げたる際とて稍躊躇の色ありしをツギは深く期する處やありけん百方孝道の重んずべきを説き且つ生計の困難は己の勤儉力行によりて之を補はんと懇々勸めて止まざるより金十も遂に其の至誠に感動し爰に夫妻力を戮せて孝養を盡さんと決心し明治三十一年十月サトを引取りたるより近所にてはツギの殊勝なる心懸を嘆賞せざるものなかりし、さて金十の家は小作農にして僅に住家一棟と些少の宅地、山林を有するに過ぎず家計甚だ困難なるにぞツギは日々夙に起きて家事を經理し祁寒隆暑を厭はず夫金十を扶けて農事を勵むと雖も一家四人の口を糊し難きよりツギは農閑の折り〳〵には僅の資本にて干魚或は駄菓子等の行商を營み又は藁細工山稼等をなして其の家計を助けつゝ專ら老母ツギに仕へ毫も其の命に背かず如何なる暴言を吐くも之れに逆ふ事なく唯だ孝養の至らざるを憂ふるものゝ如く斯くする事一年餘に及びしに流石邪見のサトもツギの至孝に心動き漸次其非を悛むるに至り今は全然別人の如くなしかばツギの喜び譬ふるに物なく爾來金十と共に一層孝養を盡くせるよりサトはツギを慕ふこと恰も赤子の慈母に於けるが如く一家は和氣靄々として常に春風の吹き滿てるが如くツギの德行は延て一族に及び實兄夫妻も金十を助けて共に孝養を盡すに至り金十の兒女等も亦たその行爲を見倣ひサトを尊敬するに至れり(以下次號)

鷄卵料理

▲鷄卵スープ　メリケン粉大匙二杯中に鷄卵二個を落し水少量を加へてベト〳〵に練り別に牛肉の煮汁又は鰹節の煮汁五合許りの中に入れ五分間煮る

▲東京オムレツ　牛乳五勺を沸かし其の中に麵麭屑五勺を入れて軟らかになるを俟ちて下ろし鷄卵六個を破り泡立ぬやうに交ぜ是に好みに随つて胡椒と食鹽を適宜に加へ別にフライ鍋にバタを布き火に掛て解ける時前の品を入れて靜かに燒く片面狐色にならば庖丁を入れて適宜に切り裏返して輕く燒き熱い内に食べる

▲キャベツ燒き　中位ゐの大きさの甘藍一個を十五分間煮たる後冷水に晒し充分水を切り細かに刻む是にバタを中匙一杯とクリームを同三杯食鹽と胡椒半匙宛を加へ好く掻き交ぜ釜付の卵燒鍋にて強火なら廿分弱火の時は半時間兩面を燒き熱き中ソースをかけて食べる

▲コーン卷き　玉蜀黍粉一合白砂糖中匙二杯鹽一匙を交ぜ合せ一合の牛乳を加へて煮たる後充分に冷し最後に卵二個を加へて練り卵燒鍋にて兩面を燒く

▲鷄卵の丸燒き　鷄卵を幾個にても堅く茹でゝ殼を去り其儘深き鍋に入れ是に食鹽黑胡椒ケンネ胡椒を適宜加味したる上バタを注ぎ入れ平にして充分に煮詰める

◎東京の盆踊唄

「お盆が來たから髮結うてお呉れ、島田がよいか、唐子がよいか、島田もいやよ唐子もいやよ、お江戸ではやる、おさげ髮」

「長い〳〵兩國橋長い、長い兩國橋納涼に出たら、お子樣がたが屋形の船で、彈くや語るやれ面白や、やれ面白や盆踊り」

「盆の十六日遊ばせぬ親は、木作、かな佛石佛、石佛」

雜錄

◎三井家の美擧　男爵三井八郎右衞門氏より生蕃討伐隊慰問並に救護基金として本會臺灣支部の手を經金五十圓を寄贈されたり

●育兒日記親ごころ(小瀬頼之氏著)　皇孫殿下侍醫として小兒科專門の泰斗たる著者が多年の實驗と研究とに由りて編み出だせるもの文章の極めて流暢平易全編日記體にして一老母が十餘名の兒孫に對し病氣の看護轉地の狀況或は衣服食物の注意等日々の事を醫生より十年間に亘り記せし體にて記述せり趣味津々たる讀物にして婦女子と雖も不知不識斬新の衞生知識を養ひ得べく家庭參考書としては近年稀れなる妙著たり(詳細は本紙廣告面にあり)

●日本轉地療養誌(長尾折三氏著)　一名浴泉案内と云ふ、我が邦到る處の鑛泉の性質海水地の氣候等苟も治病保健に適當なる條項は委く網羅して餘す處なし人若し其の病狀に應じて適當の泉質海水浴を索めんと欲せば此の書に由るに如かず(定價發行所は本紙廣告欄にあり)

●家庭に寄せし柴山栗山の書簡　栗山先生は一代の大儒なり其の家庭に寄せられし尺牘は珍中の珍なり本書は赤裸々に先生の面目を窺ふを得可く其の卷末の附錄の如き先生の父君が親しく嫁女に贈りし文面の如き家庭洋々圓滿の狀春海の如し又た諸家との往復文の如き當時先生の[illegible]を相察すに足れり(本紙廣告面に詳なり)

▲風味ありのみ　牛込區山吹町二葉商店は越後名產梨果の販賣を以て有名なるが今回入荷せし品は產地の粹を拔きたる梨果の王にして其の味はもぎたて同樣にして恰好の活涼劑なり。衞生を重ずる家庭は廣く愛用あれ季節進物用にも最もよろし。

宮內省御用品　金線サイダー

諸祝品　紀念品　進物品

給畫＝軸物　扇面　金屛風　短册　畫帖　眞筆保證

陶磁器　七寶　裝身具

金屬＝花瓶　置物　煙草具　茶器　花盛　金質請合

美術店　生秀館

東京銀座三丁目一番地　電話特長新橋一一六一

四季の好飲料

●チャリーサイダー
●チャンピンサイダ水
●レモンネード水
●ヂンジヤエール
●食麵麭

食パン

帝國大學御用　チャリ合名會社

東京市京橋區南小田原町三丁目九番地　電話新橋一四二三番

贈答用の好適品

●頭髮の薄き、惡しき、拔毛に苦しむ方よ

●毛髮洗滌液　ペトロール、ハーン

は目下歐米到る處に高評嘖々たるものにして毛髮を濃厚にし、フケ拔毛を止め、光澤を增し且つ柔軟ならしむ、而かも馥郁たる香氣あり使用復永く快感を覺えしむ眞に神妙なる逸物なり(各地有名なる化粧品店にあり)

代價　小瓶一圓廿五錢　大瓶二圓

橫濱市山下町七十番　エー、ハイム商會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

和歌

――水邊夏草――

坂正臣先生選

天　山口縣吉敷郡吉敷村　末田 竹子

あやめひくならはし絶えて夏草のこゝろのまゝにしけるぬまかな

地　赤坂區台町　清水まつ子

螢追ふ里の童にふまれてもなほこそしけれ池の夏草

人　岩代國柳津　長谷川よしの子

風わたるすゝきかくれを行く水の音さら〳〵に夏としもなし

佳作

○京都　山本靜江子
涼しやと野邊の小川に來て見れば清水は草に埋もれにけり

○岩代　西山佐保子
若あゆのかげさへ見えて山川のきしの夏草色の涼しき

○岩代　小川 しん
夏草の下を流るゝ遣水の暑さ思はぬ山かげの庵

○岩代　長谷川よしの子
魚あさるうなゐの笠も見えぬまで岸のまこもは生ひしげりけり

○三重　庄司 種子
古寺の庭のひかげの水きはにゆかしき夏の草のはなさく

○神戸　服部 重子
ゆくみづに影を寫しておとは川色すゞしくもしげる夏草

○山口　末田貞節子
淺澤の水の面せはくなりにけりまこもむらあし夏はしげりつ

○麴町　田村かれ子
草高く茂る堤を夕かけて夏に痩たる手弱女のゆく

○京都　小 くさ子
川中に石の脊みえて夏草の丈のみたかくなりまさりけり

○本鄕　衣笠きく子
つゆふかく川邊にしげる夏草はひるのほたるのねくらなるらん

○岩代　小川しん子
うなゐらがこゝに小魚やあさりけむふみ散らされし岸の夏くさ

○青森　大橋のふ子
鮎はしる川瀬の水も見えぬまで岸の小草のおひしげりけり

○芝　土師利根子
雨晴れて露おもげなる河添の草の茂みにさ百合花さく

○長崎　德永 育子
つはものゝ夢の跡とへば川岸に一きは深き夏草の色

○福岡　島爲田よしの子
名もしらぬ夏草ながら眞清水にうつろみとりは涼しかりけり

○茨城　綿引 馨子
五月雨のふる江のま菰繁りあひてなかるゝ水にゆらめきにけり

○神戸　田 きみ子
ほしけれどとられさりけり里川のかなたのきしの夏草の花

○長崎　芳子
水にいりまた夏草のやはらかきしとれにふすやあひるひとむれ

○三河　山内 經子
名もしらぬ小草茂れる谷川のきしにをり〳〵なでしこのさく

○周防　藤岡春枝子
谷川のきしの夏草ふかければ音はかりして水はみられず

○青森　大橋かれ子
ふく風に池の水草のうちそよくいろも涼しき夏の夕くれ

○備後　世廬 龜子
時鳥なきわたりゆく山川の瀬のしぶきに戰ぐ夏草

○神奈川　足立原とく子
しげりあふ岸の夏草露見えて夕涼しき川づらの里

○横濱　鈴木まつ子
夕へ〳〵ほたるとびたる里川のきしの夏草風にみだれて

○筑後　花田 知子
岸に生ふる草の葉や染めつらん綠色こき夏川の水

○臺灣　浮洲 德子
さをさして下る小舟のみきひたりなびく夏草色のすゞしき

○岡山　西村 長子
さゆり花夏もすゞしききけしきかな谷のながれにすかたうつして

○岡山　森島古野子
蛙とふ音もきこえて水の面にすゞしくゆらる夏草の影

○函館　五十嵐やす子
里川のみぎはの草に風たちてかけおもしろき夏の夕くれ

○美濃　酒井 蝶子
朝露の草にまつはり露となりて谷川に散る夏のおく山

俳句

――夏野――

內藤鳴雪先生選

天　福井縣丹生郡朝日村　三谷 貞子

吾友を草に寢て待つ夏野かな

地　長崎 芳子

虚無僧の笠に暮れかゝる夏野哉

人　京都府宇治郡山科村　山本靜江子

夕陽に牛の群れゆく夏野かな

秀逸

蝶々の高く飛びたる夏野哉　備後 世廬 龜子
給日傘のゆくへも遠き夏野哉　長崎 芳子
百萬の貔貅陣する夏野哉　岡山 森島古野子
見ろかぎり物皆青き夏野哉　岡山 西村 長子
ほつかりと夏野の空や朝の月　神戸 松尾梅里女
馬に乘る人も傘さす夏野かな　福岡 廣瀬たけ子
夏野盡きて清水うれしき宮居哉　美濃 酒井 蝶子
夏の野や草履ひきずる鄙人　岩代長谷川よしの
頰冠して娘ゆく夏野かな　麴町 田村かれ子
夏野來て狐に似たる犬に逢ふ　大阪 野田千代子
牛の子の草に隱るゝ夏野かな　兵庫 三畑たか子
雨はれて朝日流るゝ夏野かな　日本橋 大橋 雅子
日盛りや飛ぶ鳥もなき夏野原　三重 鈴木はる子
夏の野や一樹の蔭のなつかしき　福井 青山 利子
二三里は朝の間にゆく夏野かな　京都 田中久惠子
つまゝんとすれば起つなり草の蝶　長野 塚田 忠子
夏の野に摘む草もある乙女かな　京都 黒川 德子
水ありて馬の群がる夏野かな　長崎 德永 育子
人ぶら〳〵馬ぶら〳〵の夏野かな　仙臺 無名氏
夏の野に毬投げの遊びかな　福岡 小林秀野子

▼愛國文苑▲

◉和歌　坂正臣先生選
野草花(八月五日締切)　島(八月廿日締切)

◉和歌　佐々木信綱先生選
初秋(九月五日締切)　露(九月廿日締切)

◉俳句　內藤鳴雪先生選
夏期雜咏(五日、廿日の兩度締切)

▼愛國文苑▲

愛國婦人 クラブ
(投稿隨意)

●京都の但村福子樣其後は如何遊ばせし、何學校の御出身に候や、大阪の彌生子樣當時何なされ居り候や、横濱の鈴木まつ子樣御地の歌の會の有樣御聞かせ被下度候(なか子)▲井上通泰博士に和歌のおなほし願ひたいのですが御承知被下いませうか、御住所とともに御敎へ願ひます▲井上博士の御住所は麴町區內幸町一の三ですが、和歌の御敎授が受けられますか否かは承知致しません、讀者諸姉で御承知の方はどうぞ……(係り)▲和歌を學びたいと存じますが、家事多忙で所詮外出する事は出來ませんので、宅で獨習致したう御座います、小學校卒業位の者で獨習に適當な書物をお敎へ願ひます何れ其の中御邪魔に出ますから御指導の程願上ます(下谷風流子)▲浦月子樣御親切眞に有難く存ます(小石川滋子)▲和歌の研究を望まるゝ方に……愛知縣北設樂郡段嶺村豐邦國學吟社は明治二十九年創設にして、滿十五年の祝賀會を催さるゝとの事で、目下詠歌を募集して居られます、同社は基礎が既に確立して居ますから、社費は一ヶ年僅に貳拾錢で、慈善事業として社主棒園松井義刷大人は斯道の爲めに初學者の指導に努めて居られるのであります、和歌に趣味をおもちの方は御入社あつて御研究なすつては如何です、入社は男女子の別なく隨意です、毎月々報を無料で配布されます、目下の題は「夏月」(すちさう子)▲あゝ夏と云つたのみで暖かい、汗の流れるやうな感じがします、學校も近々休暇に成りますので、避暑に參りたいと思つて居りますが、房州はいやだし、鎌倉、逗子、伊香保熱海などは好みません、東京から十里以外三十里位までの海岸で好避暑地はありますまいか、少々位の交通不便は忍びます(四ッ谷君子)▲麻布、ふさ子樣▲遠江、寺田とき子樣賞品を御送附致したいのです至急御住所一報を願ひます(係り)

六月廿六日(日)晴　閑院宮殿下神奈川縣下より御歸京
▼同廿七日(月)晴　東伏見宮同妃殿下葉山より御歸邸◉印度王マラジャー殿下參內◉故樞密院顧問官稅所子爵葬儀擧行に付敕使御差遣幣帛を賜ふ
▼同廿八日(火)晴　新任本邦駐剳暹羅國公使マハナブハブ氏信任狀捧呈◉閑院宮殿下佛國絕東艦隊提督歡迎會御臨席◉山縣副統監韓國赴任
▼同廿九日(水)晴　佛國絕東艦隊提督天皇陛下に謁見す
▼同三十日(木)晴　皇后陛下後樂園行啓
▼七月一日(金)晴　閑院宮殿下國府津御成◉韓國新警察實施◉旅順港開放
▼同二日(土)晴　將校婦人會總會　皇后陛下行啓
▼同三日(日)雨　東宮殿下東伏見宮邸に御成◉德川昭武侯薨去◉伊知地司令官揮下の練習艦隊吳港歸着
▼同四日(月)曇　天皇陛下新築近衞師團司令部行啓◉伏見若宮同妃兩殿下御歸朝◉日露協約調印◉白瀨陸軍中尉の南極探險發會式◉米國獨立祭
▼同五日(火)晴　天皇陛下より帝國學士院へ金圓御下賜(毎年二千圓宛十ヶ年間)◉皇后陛下東京慈惠會第三回總會行啓◉閑院宮殿下小田原より御歸京
▼同六日(水)晴　天皇陛下陸軍戸山學校終業式御臨幸◉宮中月並御歌會◉神田婦人會總會◉東宮殿下新築近衞師團司令部御成◉閑院宮同妃兩殿下小田原御成◉久邇宮殿下滋賀縣愛庭野御出張

見よ家庭の福音讀め

本書は少時より專業者の間に在りて多年實地の經驗を積める著者が各地の講習會に臨み實際に行ひつゝ示し講演したるもの、中家庭に於て便利を感じ容易に行ひ得べき部分に挿圖を以て詳細親切に說述したるものなり

家庭實用 新式染洗法

總クロース製　振假名付　美本全一冊　定價六十錢　送料八錢

內容

一 染色並に洗濯に用ふる水の心得
二 木綿絹布毛織物ホワイトシャツの洗濯法
三 絹物毛織物木綿類の洗色法より特殊の洗方色揚の法
四 各種の沁み汚染拔の法

本書を熟讀しその示す所に從へば他の助言指導を要せず實際に成就するなり當所は讀者諸姉の御便利の爲め御取次申すべく候

女子の天職は一ならざれども其第一義は家庭敎育の主任者たるに在り然るに其の理論方法等の書類は山の如くあれども具體的に標準たるべき者なかりしは遺憾とする所なりしが今回帝國育英會長秦政治郞氏が專ら父母敎師たる人の爲に著述せられたる實例引證

家庭訓育百話

總クロース特製　口語體
正價金七十五錢　假名附
送料市外內地八錢

は氏が三十年來敎育界に在りて幾千の學生を管理せる間に親しく氏の家庭に於て訓育し又は特に監督したる少童青年の男女百人の性格に就き其遺傳慣習を審査して善良なる者は之を助長し性癖ある者は之を矯正して將來の希望をも敍記せられし空前の實體寫眞にして子を持つ親人の師たるもの座右の不可缺好材料なり

女德論叢

定價 郵稅共 金二十錢

本書は大隈伯爵元良博士其他當代の名士才媛の卓說を網羅せり

見よ家庭の福音讀め

東京麴町區九段坂下
愛國婦人發行所
取次所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講談

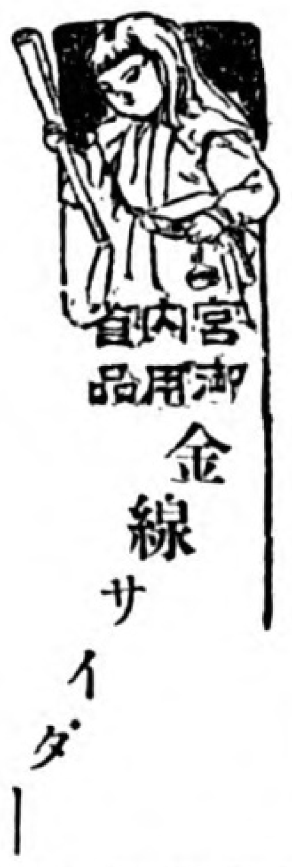
赤穗義士の内 **勝田新左衛門**

大島光利口演

第三席の一

其時に新左衛門は吾が兒の顔を見下す容子は憂を含んで何となく仔細ありげなる擧動故、十兵衛も偖はと思ひ當る、はや大望の近寄しかと小膝の進むを覺えず、十『偖て新左衛門、絶て久しき對面、話す事も種々あるが、先々互に無事が重上重上然し一年半以上の永の年月何所に暮して居つたるぞ　新『ハイ私もお別れ申して播州赤穗に參り御籠城と思ひの外、大石内藏之助殿の仰せには城は故なく公儀へ返上、家中一同退散と極る、太平武士のはがゆきと實は一旦腕を擦りましたが、イヤ〳〵我一人矢竹に猛つても大望成就は思ひもよらず、時世時節と斷念まして諸國を彷徨其裡に貯への金は無して、大小さへも賣代なし尾羽打枯した痩浪人、御當家へ參るのも隣近所の手前もあり、幾らか稼ひで金が出來たら衣服を飾つて御詫をと、深川安宅に浪宅を構へ、稼ぎなれたる天秤商ひ、蘿蔔〳〵と商ふて露命を繋ぐ其裡も、折々御當地近所へ來て御容子を問合せれば貴下も御壯健、妻子も無事と聞を心の樂みとして是迄生計て居ましたが、圖らず昨日松坂町で御目に止つて恐縮の至り、夫故に今日、高い閾を厭はずに御詫かた〳〵參りました、十『ウン新左衛門、零落て蘿蔔を沽、腰拔武士と云はれても其方は恙とも思はぬか　新『他人が何と申ませうとも其日を送る渡世なれば更に厭ひは御座ひません　十『イヤ〳〵然じやあるまい、貴樣が昨日商ひした所は、本所松坂町、去年までは近藤登之助の揚地屋敷なりしが、只今は吉良上野之介殿の御住居、片々は軒を並べた商人店、商ひ爲すのは屈竟なるを、的の違つた侍屋敷を軒端に添ふて蘿蔔〳〵と賣つて居た貴樣の容子、コレ新左衛門、と云ひつゝ增々側へ寄り　十『昨年御切腹なされたる殿樣の御恨みを晴すは吉良殿が當の敵、夫を狙らつて居つたのであらう晉の豫襄は唐土の大忠臣、歷史の上には響て居るが、昨日貴樣の容子を視た時、豫襄より遙かに優つた忠義の婿とて、嗚呼武門の譽れぞと、嬉し涙を滾したぞ、夫故に今日其方の來るのを昨夜から碌に眠ずに待つて居た、誰も聽人はない、茲に居るのは拙者の娘、其方の女房、我の初孫其方の長男、あとには三毛猫が一疋之は畜生で文句は判からぬ、何うじや大

望が近寄しと見えるな、天に口なし人を以て言はしむるとやら、頃日世間の噂にも赤穗の以前城代家老大石内藏之助殿を始め、忠義の人々吉良家を狙ふと專の噂其かあらぬか噂を聞さえ嬉しく思つて居た、然るに昨日の其方の容子、噂に違はぬ天晴の心底、弓矢八幡に起請をかけ、本望成就を今朝程から實に祈つて居つた處である、かゝればつながる婿舅の間じや、眞實の事を話てくれよと問かけられたる時、庭前に撲地と物音、障子を拂て打見やれば、下郎久助高箒を以て庭の松ケ枝の雪を拂つて居る、勝田は容子をチロリと見て、南無三法と胸中に驚き、下郎は口の多ひもの、殊に公儀の直參たる舅十兵衛の前ならば上杉家の廻し人が、吉良の細作を爲すかも知れず業已今宵松坂町吉良の邸へ亂入すれば首尾能本望を遂たとて天下の罪人、命は無、武運盡れば反討、何れにしても今生の暇乞、一言告んと思へども、下郎が容子を聞たなら最早話は相成らぬ、定めし一時は御恨みなさらうが、遲も明日は世間の風聞、松坂町の容子を聞かれて、偖は然かと御喜びヨ、ワ秘して歸るに如ずと決心いたした勝田新左衛門はおもむろに口を開き、新『ハイ左樣な噂が立て居りますか　十『イヤ立て居る處じやない、專ら世間の風聞じや　新『然し世の中には買冠と云ふものがあるもの、私は百石を頂戴した淺野の家來なるが、殿樣御一人の御短氣の爲御家中一統ちり〳〵ばら〳〵、殿の御短氣を御恨みこそすれ、何で吉良樣を御恨み申しませう、好又御恨み申したところで先は天下の高家旗本、吉良少將良央公此方は哀れな痩浪人、殊に吉良樣の御子息は出羽國米澤に於て十五萬石、上杉彈正大弼樣、天文の昔より信州川中島に武名を揚げ武道の棟梁とまで云はれた御家鬼に鐵棒虎に翼、寡は衆に敵せずと申す假令、二十や三十の痩浪人で何事が出來ませう、左樣な儀は一切御座ひませんと斷然と云ひ切れば十兵衛小首を傾け　十『ハテ大望がないとすれば不思議だぞ　新『何が不思議に見えます　新『然じやないか、昨日雪の中に蘿蔔〳〵と天秤を擔ひで居つた其方が僅か一夜に變化はげしく昔に復る武士の扮裝、何うして斯やうな扮裝になつたるぞ、サア此事を話せ何うじや。



サツパリしたお化粧の時季が來ました
文明的衛生薄化粧料としては、
水晶おしろいが一番
よいのです、透明した水の
やうですが、附けるとすぐ
ほんのりと**白くなり**素
顔の**美しい**のとしか見え
ませんで、**御婦人方**に限らず、
紳士方も盛んにお用ひになります、
（定價金參拾五錢……貳拾五錢）

賜天覽

●東京醫科大學教授醫學博士 弘田長先生閲
●東京文科大學講師 佐々木信綱先生校
●前侍醫補小兒科 小原賴之先生著

育兒日記 親ごころ

和裝美本全二冊 洋裝美本全一冊
各定價金壹圓五十錢 小包料金拾五錢
臺灣、清、韓は小包料三十五錢

●菊判形美裝五百餘頁 ●寫眞版、木版挿圖三十餘

（修身評）此は著者の專門に從事せらるゝ小兒科の實地研究に基き、世の親たちの育兒の栞ともなり、多くの病兒を取り扱ふ婦女子の看護の助ともなりて多少の利益を世に與へんが爲にとて平易なる文字を以て日記體に編せられたるものなり、されば此書載する所 小兒の衣食住より小兒病の實況を網羅して頗る丁寧に記述せられたれば、世の慈愛に富める親たちの良い手引草と云ふべく病兒を取扱ふ者の此上もなき參考書なり。今左に赤子の入浴の一節を示さむ。
産後早くも七日目になりぬ、産婆よびて必ばがりの祝などとらせつ、さて今迄は入浴の事便の事多くは産婆の手にて取扱ひしが 明日よりわれ代りて爲さればならず、不慣なれば豫て先生よりきゝ置きし小判形の盥なしつらはせたり（挿圖あり）…… 今宵は元太郎の七夜とて親類の者どもあつまり居て（下略）
總べて此如く平和なる文に總振假字、五百頁に近い大著述、挿圖は總べて有益なるもの、寫眞版は特に重寶、終りに索引を附せられたる最も丁寧に極むと云ふべし。

東京市神田區美土代町三丁目一番地
發行元 富田文陽堂
振替貯金三三三〇七番
電話本局一二六四番

取次所 愛國婦人發行所
愛國婦人會員に限り郵送料不要

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

香水はゴスネル會社製造の
オーダー　コオローン
に限るとは、御婦人達の定評なり
製造元　ゴスネル會社

倫敦　巴里

東京市麴町區錢瓶町（常磐橋内）
日本興業銀行
電話本局｛一、二八〇番　三、三〇〇番　二四〇番｝（特）｛三一一番　一〇七番｝
資本金壹千七百五拾萬圓

營業科目
一擔保附社債に關する信託業務
一有價證券其他貴重品等の保護預
一有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一地方債、社債、株式等の發行募集事務
一各種の信託事務
一國債證券、地方債證券、社債券、株劵の擔保貸付及手形の割引
一國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一定期預金、特別當座預金

暑中御贈答品
絹　麻　綿　ハンカチーフ
東京市日本橋區ふきや町
中西儀兵衛
電浪七百番

資本金八千百萬圓
東京京橋區木挽町
株式會社**十五銀行**
電話新橋｛三三〇〇番　一五三〇番　三一九三番｝
同日本橋區新乘物町
同**日本橋支店**
電話浪花｛一九〇一番　三二七四番　三五〇八番｝
一定期預金　六ヶ月以上年五分
一當座預金　日歩七厘以下
一特別當座預金　同　壹〻錢

東京市日本橋區通一丁目
合名會社**森村銀行**
電話（特）本局六七三番
電話本局四九八番
定期預金　六ヶ月　年四分五厘
當座預金　百圓に付日歩　五厘
特別當座預金　同日歩　九厘

夏季講習　八月一日ヨリ二週間
和服、洋服、裁縫、刺繍、造花、摘み、袋物、編物、組糸等其他國語及教育
文部大臣認定　私立**和洋裁縫女學校**
東京市麴町區飯田町九段中坂上電話番町千九百七番（通稱堀越女學校）

發明館
特許品　意匠品　實用新案品｝陳列販賣
觀覽無料
晝夜開館
京橋區銀座二丁目五十番地
電話新橋三六五七番

本館陳列品は一物一品皆なこの特色あり係りの者の說明御聽取の上御求め相成度候也
一衣服地帶地
一金銀眞珠其他寶石細工品
一化粧用品
一男女洋服附屬品
一和洋傘類
一履物
一室內道具類
一臺所道具類
一文房具教育用品
一玩具
一機械類
右の外數百種

中元御贈答品

シャンピンサイダー
製造元
東京市芝區金杉壹丁目
澁谷守藏

●御進物用には至極好適

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

金婚正宗の名譽

●御進物用には至極好適

畏も東宮殿下御買上の榮を荷へり

優等清酒金婚正宗の品質純良なるは既に定評あり而も價額尤も低廉也

●御常飲用には樽詰もあり

宴會用小壜詰あり
瓶詰箱入
各洋酒問屋にあり

發賣元
神田美土代町二丁目角
豐島屋本店
電話本局一七五四番 三八一一番

胃病良藥
太田胃散

ビユウテイ

化學の進歩が發見せしビユウテイは
五十倍の効力ある
美顏化粧原料
色白く艶を出しニキビ、タムシ、ソバカス、ハタケ、ナマヅ吹出物一切を去り眞正の美人となる
定價三十錢五十錢一圓
本舖東京神田 山崎帝國堂
大阪高麗橋一丁目 同支店

古今無比の純良品宮内省御買上の光榮を得たる
みやけ油

東京人形町通
三宅堂本舖
長電話浪花六二〇番
振替口座東京八七五番

衛生に注意の男女方は彼れ是れ迷はずにみやけ油を御用ひなさい模造品四方にあれば長髮美人商標と東京人形町みやけ油本舖製に御注意信用ある店に販賣す

種苗農具目録無代進呈

東京麻布三の橋
學農社
電話芝一三三三

▲高峰博士發見特許製法に由る消化新藥▲強度一定効力永久不變
▲類似模造品あり「タカ」の冠字御注意▲各地有名藥舖にあり

タカヂアスターゼ

發賣元　東京日本橋室町三丁目　三共合資會社

御扇子

愛國婦人會御用達

京都寺町五條下ル東側
御影堂　持阿彌

東京神田區美土代町三丁目十七番地
内科一般
午前宅診 午後往診
板垣亭
電話本局貳千九百七十番

◎院長ドクトル木村順吉
京橋卅間堀一丁目角(電話新橋二六七〇)
婦人科產科木村病院

●宮内省醫員を辭して一般の治療に應ず
安島廣三郎
腦神經衰弱、リウマチス、脚氣、神經痛、胃腸病、婦人病、耳鳴、
●從來の鍼術と異なり痛なし
日本橋區元柳町八【電車淺草橋下車】
朝七時より二時迄
安島鍼術治療所
電話浪花三一一番

生殖器病科
診察朝八時より夜九時まで
梅どくりん病 ぢ疾症 わきが 神經衰弱症 ●皮膚病●ほ黒
東京淺草瓦町廿八 瓦町電車停留場横
中央醫院

生殖器病專門中央醫院處方
梅毒 橫根 下疳 りん病・ぢ疾症 皮膚病 わきが
生殖器病 神經衰弱 記憶力減衰 陰萎 夢精 遺精 早漏 陰莖 發育不充分
●病狀を記し郵劵六錢送れば其病を速治する特効新藥說明書送る
東京淺草瓦町廿八 瓦町電車停留場横
中央藥院

腦神經精神病科
東京龜戸町電話浪花二二五五二
加命堂腦病院

小兒病診療
往診午後 宅診午前
淺草區新福井町二(瓦町電車停留場際)
醫學士 内田愼太郎
(電話下谷七一八)

產科婦人科 小兒科
牛込區納戸町三六
電話番町一〇四〇番
野中醫院

產科婦人科專門
診察每日午前 入院隨時
淺草區左衛門河岸
電話下谷一〇二八
岩田病院

◎產科婦人科
芝明船町十九虎門外
電話新橋三三二四番
櫻井克巳

岩佐病院
日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地
(電話浪花六七九番)
診察時間 自午前九時至正十二時
内科婦人科 院主 岩佐純
内科 院長ドクトル 岩佐新
外科 醫學士 山村正雄
產科婦人科 醫學士 佐久間兼信
腦病脊髓病 醫學博士 土田卯三郎

產科婦人科小兒科 院長 女醫 鷲山彌生
診察時間 每日午前八時より 醫員 每日午後三時より
内科部長 醫學士 武智基造
診察時間 火木土午後壹時より
病室及產室の設けあり入院隨時
東京市麴町區飯田町四丁目卅一番地
東京至誠病院
電話番町二二五七

婦人科產科 榊病院
醫學博士 榊順次郎 每日午前診察
醫學士 久保徳太郎 日曜水曜午後婦人科的外科
醫學士 田代謹二 火木土曜日午後泌尿器病及內科
●施療火木土午後自一時至二時
●施療妊婦產婦ヲ取扱フ
麴町區三番町三三(電話番町三九五)

福田病院
京橋采女町歌舞伎座前横通
電話新橋(三二四二 四八八一)
院長 醫學士 福田謙之
次長 醫學士 加藤良逸
次長 醫學士 狩野伊勢雄

小兒病一般
並(小兒皮膚科 小兒耳科)
隔離室の設備あり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附録 愛國婦人會記事

日本輸入品に限り包裝紙に斜に『アイボリー石鹼』と記入し一見模造惡質石鹼と判別に容易ならしむ
御購求の節『アイボリー石鹼』に御注意を乞ふ

宮内省御用達

印球地

凱旋

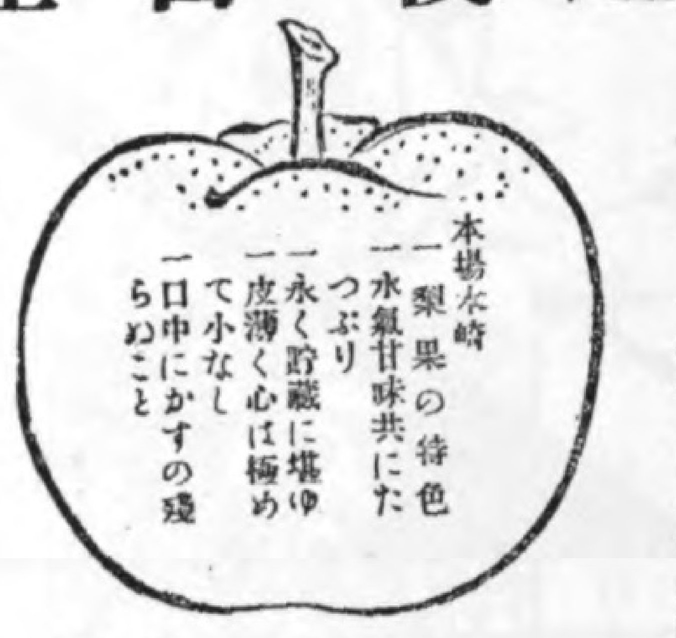
サイダー
オレンヂ

●家庭に於ける好飲料として貴婦人界に好評嘖々たり
●暑中御進物品として最もよろし

日本製氷株式會社
新榮町工場製造
電話特長新橋五九二番

風味ありのみ

越後名産



●中元御進物用に最も宜し

定價
並等品一個金五錢
上等品同金八錢
優等品同金十二錢
特等品同金十五錢
箱詰入金一圓二十錢以上
御進物用金二圓二十錢迄
（外數種あり）

●市内は一圓以上御需めの方へは御一報次第直ちに配達可致候

東京市牛込區山吹町十番地
越後名産梨果專門
卸小賣 一葉商店
（江戸川電車終點矢來交番の中央）

愛國婦人廣告取扱
神田三河町一ノ一九　博報堂
京橋區宗十郎町一七　正路喜社
愛國婦人海外廣告一手取扱
日本橋區蠣殻町三ノ一一　大興社
京橋區南紺屋町一　一星社
神戸市元居留地仲町三八　東洋廣告取次會社
神田須田町廿七　金蘭社
京橋區　廣告社

明治四十三年七月廿日發行（毎月五日、廿日二回）（定價金三錢五厘一ケ月金七錢郵税不要）廣告料一行金六拾錢
發行兼印刷人　山澤㕝夫
編輯人　竹内貞三
發行所　東京麴町區飯田町　愛國婦人發行所
印刷所　東京本所區番場町　凸版印刷株式會社分工場

門外不出の資料

文學博士 三上參次先生序
◉百年後の今日史化した栗山の信書の秘密は遺憾なく曝露せらる
長尾藻城 川口刀水 合輯（岡田無聲意匠裝釘）

鼇頭附註評論

家庭に寄せし 柴野栗山の書簡

菊版本綴頗美本●肖像筆蹟寫眞版石版數多插入●正價壹圓●郵税八錢

正學一代の儒宗寛政三博士の一人柴野栗山先生が草澤の一野人より起り白河樂翁公ご握手し幕府の學政改革を敢行し異學の禁令を發して天下の耳目を聳動せし事蹟は今玆に說かず。又幕臣に夙に勤王の大義を絶叫し畝火陵下に拜跪せし千古の涙を灑ぎし栗山、紫宸殿に賢聖障子の脩理を督して冠服考證に浮身を窶せし栗山、蒲生君平の志を助けて其著山陵志の獻上を敢てせし栗山。將た垂髫時の賴山陽を評して後世可畏の語を放ちし彼をして終生隨喜の涙を滴さしめし栗山の語るは本書の目的にあらず。收むる所は其家庭に贈りし手書百餘通、秘中の秘、珍中の珍、御一覽後火中、御他言御無用等の語は往々にして之を見る。當時事實上の文部大臣たり大學總長たる栗山の側面觀は如何。阿波時代より京洛時代江戸時代に至る赤裸々たる栗山の眞骨頭は如何、收めて一卷の中に在り、若夫れ其内容の如きは總て是れ精神脩養の資、家庭講話の材。况んや尺牘文文範として優に後世に傳ふ可きものなるをや。敢て一本を江湖に推奬す。

發行所 東京本郷區龍岡町 聚精堂 振替東京三〇五八
賣捌 東京・至誠堂 東京堂 大阪・松村 各書肆

▼全國各藥店にあり

皆様(みなさま)

今日(けふ)もまた丈夫(じやうぶ)で元氣(げんき)で心(しん)から愉快(ゆくわい)に「暮(くら)す様(やう)」「ゼム」を今(いま)すぐ召上(めしあが)れ

造花材料

東京市本郷區眞砂町
百花堂
（營業目録御報次第送呈ス）

趣味ゝ實益を兼ねたる

男爵 醫學博士 石黒忠悳翁題詞　中村不折先生題畫
醫學博士 林春雄先生序　長尾折三先生纂著
九ポイント及六號文字寫載

日本轉地療養誌
一名 浴泉案内

○著色石版木版圖優美鮮明寫眞版圖百影十面插入
菊判洋裝本綴美麗●紙質上等紙數六百六十二頁　正價金參圓　小包料十二錢

◉萬朝評　近ごろ氣のきゝたる書物なり：：編を總說、特說の二部に分ち總說に轉地療法の意義、氣候上より見たる日本、日本の地學上に於ける位置及地勢、氣候療法、鑛泉療法及海水浴療法の起原を明にし特說に五畿内八道の山間海岸の療養地案内を揭ぐ、總說は親切、特說は簡にして要を得たり、若夫れ多くの寫眞版ご詩歌の類等を插めるは趣味あり、寫眞版に古き浴泉繪書の複寫多きは殊に面白し

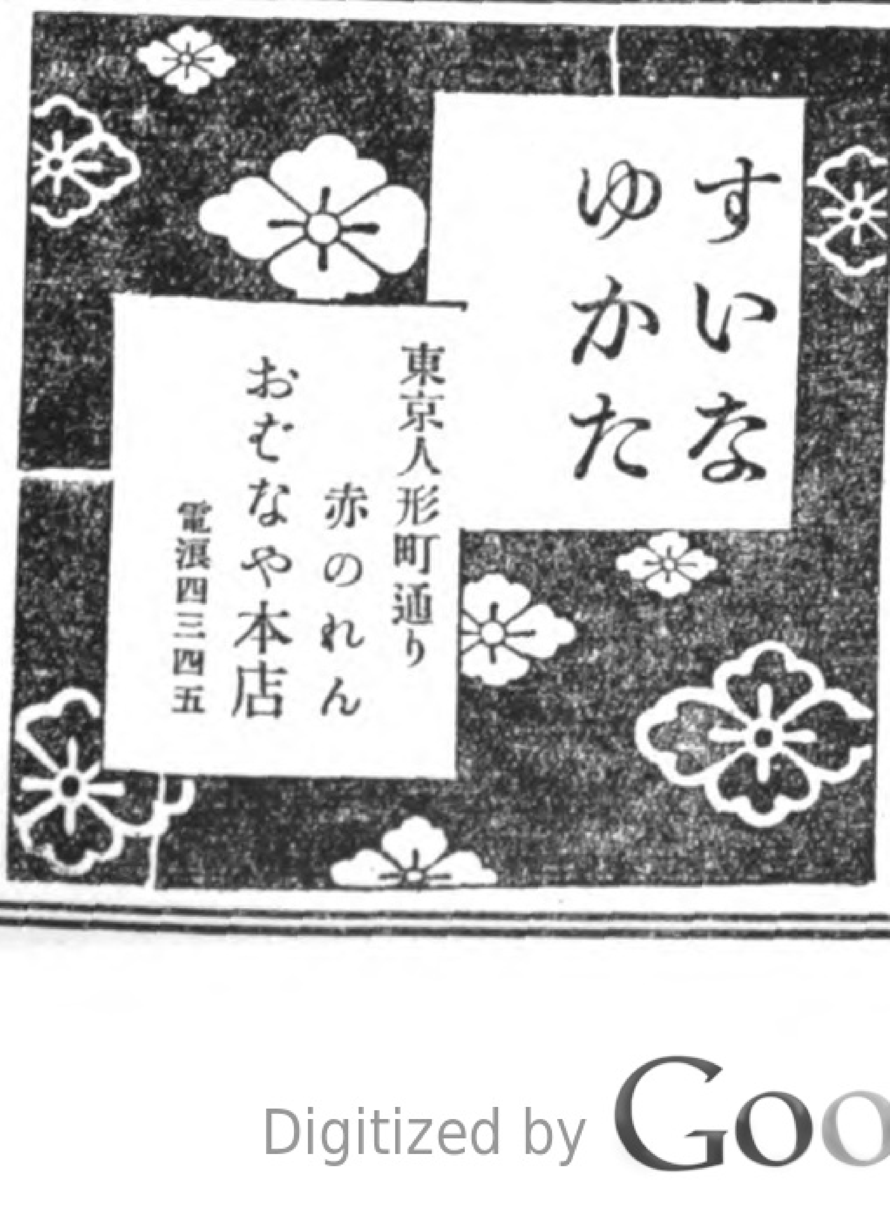
◉東京朝日評　著者長尾藻城氏は刀圭界の文筆家なり：：無味乾燥一卷を讀了するに耐へざらしむる著者に依て其通例を破りたるは本書を繙きて先づ第一に喜ぶ所なり

◉時事評　各溫泉の所在泉質溫度等を記述して其區域内に於ける各種鑛泉の含有物分類表を揭げ病症に應じて其泉質を探索する便に供し風景寫眞及詩歌をも插入して精神的療法の資に充てたるは注意周到醫家及一般世人の好參考たり

◉國民評　各鑛泉大抵案内記なきに非ざるも何れも手前味噌の陳列にして讀者皆其眞僞に迷ふに當り斯の如く醫術的に將た社會的に公平精細なる興味ある著述の現れたるは凡て江湖に推奬するに足る

口繪　アートペーパ獨墺知名鑛泉場と本邦鑛泉場の對照

發兌 吐鳳堂書店（東京市本郷區龍岡町三十四）振替東京四一八番 電話下谷一六七二番



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附錄 愛國婦人會記事

本部記事

▲慰問袋募集　第一面記載の如く本部は今回臺灣に於ける討蕃軍人慰藉を目的として慰問袋募集に着手したり。

▲部長の出張　第二部長杉原全德氏は會計檢查として左記各支部へ出張を命ぜられ本月二日出發せり。

福島、宮城、山形、秋田、青森、岩手

▲囑託及解囑

香川支部長　鹿子木ハナ子氏
同　顧問　正五位　鹿子木小五郎氏
靜岡支部長　石原靜子氏
同　顧問　從四位　石原健三氏
石川支部長　李家賁子氏
同　顧問　從四位　李家隆介氏
鳥取支部長　岡優子氏
同　顧問　從四位　岡喜七郎氏
千葉支部長　告森多賀子氏
同　顧問　從四位　告森良氏
高知支部長　杉山若代子氏
同　顧問　從四位　杉山四五郎氏
奈良支部長　若林ツネ子氏
同　顧問　從五位　若林賚藏氏
富山支部長　濱田雪子氏
同　顧問　從五位　濱田恒之助氏

右六月二十五日附を以て頭書の通り囑託せられたるが、同日解囑せられたる人名左の如し。

外山支部長　宇佐見芳子氏
同　顧問　宇佐見勝夫氏
千葉支部長　有吉久子氏
同　顧問　有吉忠一氏
石川支部長　村上須磨子氏
同　顧問　村上義雄氏
奈良支部長　寄木たま子氏
同　顧問　寄木良雄氏

▲有功章及謝狀等贈與

一、婦女鑑一册　京都支部
一、扇子一本　元天田郡幹事部長　小澤いね子
右功績に依り特別謝狀並頭書の通贈與

沖繩支部元副長　篠田龜壽子
一金五圓寄附に依り第二種謝狀贈與
(以上五月二十七日)

一木盃一組　大阪支部元東成郡幹事部委員　高須璉一
右功績に依り特別謝狀並頭書の通贈與
(六月七日)

一インキ六打　滋賀支部犬上郡幹事　小林たく子
右寄贈に依り第二種謝狀贈與(六月十六日)

山口支部委員　片桐久太郎　同　中村逸太郎
同　星出齊　同　三分一權一郎
同　梅本彌一兵衛　同　玉井修
同　淸水誉治
右功勞に依り特別謝狀並木盃一個宛贈與
(六月二十一日)

韓國委員本部評議員　頭本ハル子
右功績に依り三等有功章贈與(六月廿二日)

一木盃一個　大阪市北區源藏町　武內常太郎
朝日麥酒三斗、シトロン二箱寄贈に依り特別謝狀並頭書の通贈與　(六月十五日)

韓國委員本部大邱委員部長　能勢英子
同　委員　岩永千賀子
右功績に依り三等有功章贈與(六月廿五日)

第一種謝狀　韓國委員本部大邱委員部委員　安川七代子
同　同　竹內ノブ子
同　同　池上セイ子
同　同　丸山タキ子
同　同　田田國子
同　同　生橋信子
同　同　兒玉ヨシ子
扇子一本並特別謝狀　同委員部副長　川上絹子
同　同委員　渡邊梅子
同　同　藤縄八重子
同　同　三上可哉子
木盃一個並特別謝狀　同事務員　小池鐐三郎
同　同　浦田友賢
右功勞に依り各頭書の通贈與(六月廿五日)

福井支部元主事　近藤直一
功績に依り二等有功章贈與(六月廿八日)

一婦女鑑一册　宮崎支部　小和田コト子
功績に依り頭書の通贈與(六月廿八日)

高知支部幹事　孕石千雄子
韓國仁川委員部委員　高田光子
功績に依り三等有功章贈與(七月五日)

香川支部

▲明治四十二年度事務成績

▲會員增減　四十一年度末會員總數一萬二千九百十五人本年末現在員一萬二千五百九十四人差引三百廿一人の減少を見るに至る。

▲會費納付の情況　種々の手段を講じ熱心努力したる結果略前年度と同額を徵收し得たり。

▲遺族癈兵救護　本年度中定期救護金を贈與せし者遺族五十三名癈兵五名にして此總金額九百五十二圓五十錢なり、尤も當支部は遺族及癈兵の救護に關し永久の基礎を立てんが爲め十年計畫なるものを企圖せる事は豫め報告せる通にして其目的を遂行するには救護資金の運用と救護方法の適實なるを要し特に承認を經て救護方法を定め之を施行しつゝあり。

▲會費

一金一萬千百四十三圓三十二錢五厘　本年度醵集金
(一人平均八十八錢四厘に相當)

內
金三千三百四十三圓五厘　支部經費
金千百十四圓三十三錢　支部基本金
金二千二百二十八圓六十六錢　支部救護金
金四千四百五十七圓三十三錢　本部納金

▲基本金

一金五千七百九十三圓四十五錢一厘　年度末現在高

內
金四千四百九十二圓五十一錢一厘　前年度より繰越高
金千百十四圓三十三錢　會費步合金
金百八十六圓六十一錢　預金及公債利子

▲救護金

一金二萬四百六十三圓九十五錢三厘　收入高

內
金一萬五千百五十六圓九十二錢三厘　前年度より繰越高
金千七百七十五圓　本部配當金
金五百六十七圓　香川縣廳より交付金
金七百三十六圓三十七錢　預金及公債利子
金二千二百二十八圓六十六錢　會費步合金
金九百五十二圓五十錢　本年度支出高
金一萬九千五百十一圓四十五錢三厘　翌年度へ繰越高

▲經費

一金四千九百三十一圓九十五錢七厘　受入高

內
金千五百十九圓五十二錢二厘　前年度より繰越高
金三千三百四十三圓五厘　會費步合金
金六十九圓四十三錢　預金利子

一金三千三百一圓八十八錢二厘　支出高

內
金二千四圓二十四錢一厘　支部經費
金千七百四十四圓三十四錢一厘　幹事部以下經費
金二十三圓三十錢　募集諸費
金二百圓　總會積立金
金千六百三十圓七錢五厘　翌年度へ繰越

▲支部總會積立金

一金八百五十九圓六十五錢　年度末現在高

內
金六百三十一圓七十錢　前年度より繰越高
金二百圓　本年度積立金
金二十七圓九十五錢　預金利子

▲寄附金　十一月十六日大川郡鶴羽村委員部總會補助費として各頭書の通り寄附せられしに付謝狀を發したり。

金十八圓　大川郡鶴羽村　木村八百吉氏
金一圓五十錢　同　龜井小平氏
金一圓五十錢　同　木村廣子氏

▲評議員會其他　本年度中開催したるもの評議員會一回、委員部總會二十五回

▲有功章及物品贈與　各頭書の通り贈與せられたり。

二等有功章　支部評議員　柏原トシ子
同　同　赤堀セイ子
同　仲多度郡幹事　山地キヌ子
三等有功章　支部評議員　濱田フジ子
同　同　森田カネ子
同　綾歌郡幹事部長　瀬高イキ子
同　同顧問　瀬高龍人
同　大川郡幹事部顧問　福葉修敬
同　丸龜市同　長谷川和愛
同　元木田郡同　樋口德太郎
扇子一本　婦人鑑一册　香川支部評議員　片岡愛子
同　同　深井ツネ子
同　高松市幹事部長　鈴木章子
同　同幹事　山田ヤス子
同　同　築地トメ子
同　特別終身會員　喜田吉子
同　香川郡幹事　阿賀淺子
同　同　高橋ヒロ子
同　小豆郡幹事　森井イソ子
同　綾歌郡幹事　宮武ハナ子
同　同　谷本ミツ子
同　同　藤井タキ子
同　仲多度郡幹事　山地寛子
同　同　安達讓子
同　同　松宮キセ子
同　三豐郡幹事　小林ナカ子
同　同　磯崎カツ子
同　同　森シゲ子

▲委員部表彰　會員募集に就き非常に盡力せし幹事並に會員募集又は會費整理の成績善良なる町村委員又は事務員には該委員部總會を機として其時々詮議の上木杯一個宛を贈與せり其幹事部別人員左の如し。

大川郡幹事部　委員三人　幹事四人　事務員一人
木田郡同　幹事四人　事務員四人
小豆郡同　委員六人　幹事三人
香川郡同　委員二人　幹事五人　事務員一人
綾歌郡同　事務員十人
仲多度郡同　委員三人
三豐郡同　委員一人

▲會費完納町村部委員表彰　會費徵集成績の良否は一に委員部の斡旋に繫るを以て其成績の善良なる完納市町村委員部(市ハ幹事部)に對しては一昨年來年末慰勞として相當の物品を贈與し之を表彰し來れるが本年亦昨年分會費完納町村委員部に對し當地名產文綺堂製菓子器一個宛を贈與せり其個數左の如し。

大川郡　一等二個　二等六個　三等十五個
木田郡　同　四個　同十一個　同　四個
香川郡　同　一個　同　三個　同　二個
小豆郡　同　一個　同　二個　同　七個
綾歌郡　同　九個　同　六個　同　十七個
仲多度郡　同　一個　同　六個　同　八個
三豐郡　同　三個　同　八個　同　十一個

▲軍人遺族癈兵慰問　本年五月中大川、木田、小豆、綾歌、仲多度及三豐の六郡軍人遺族及癈兵援護者生活狀態調查を兼ね慰問の爲め事務員を派遣せり。

▲敎養生に干する件　本年三月撰拔せられて本會敎養所に入りたるは左の三名なり。

丸龜市　藤田右三郎　同　藪田權次郎
大川郡引田町　山田榮

▲職員異動　本年度中支部職員の異動左の如し。

囑託

支部副長　堤備子　評議員　田中りつ子
木田郡幹事部長　末澤ツネ子　香川郡幹事　河田コヒデ子
大川郡幹事　堤ムメ子　大川郡幹事　中野シゲ子
三豐郡幹事　長尾今子　同　磯崎カツ子
同　小林ナカ子　同　小山龍田子
同　田淵ヨシ子　同　細川シゲ子
同　葛西保惠子　同　磯野トク子
同　藤田直子　同　晴川カホル子
同　今井サイ子　同　香川龍順子
丸龜市幹事　岩木レノ子　同　濱田奥葉子
同　三宅セイ子　同　村岡ヒサ子
木田郡幹事　瀬尾マサ子　同　古市ミエ子
同　大西トメ子　同　松原クニ子
同　山本八重子　仲多度郡幹事　森コト子

解囑

評議員　赤堀セイ子　仲多度郡幹事　道久カネ子
木田郡同　梅園ナミエ子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

高知支部

▲明治四十二年度事務成績

明治四拾貳年に在ては時局後年を經ると共に諸般の事業全く常態に復し事務の成績として別に著しきものあらざるも軍人遺族幷に癈兵の救護慰問會員募集等其の主なるものを掲ぐれば大畧左の如し。

▲遺族幷に癈兵救護　救護は前年に引續き各自の生活狀態を調査し生業扶助に兒童教養に生計補助等可成永久に自營自活の途に向はしむるの方法を採り懇切周到を旨とし一面又施與的濫給の弊に陷らしめざることに留意し以て遺憾なく實施しつゝあり今四拾貳年度に於ける救護金額及び人員等を掲ぐれば

一救護金額　貳千壹百七拾參圓四拾八錢五厘
二被救護戸數　壹百拾八丙六拾五 丁五拾參
三家族數　四百六拾六人

▲慰問　遺族幷に癈兵等に對しては職員及び會員等時々訪問慰藉を加へ尙救護に就ては十分なる注意と援助とを與へ居れり。

▲軍隊の歡送　當地步兵第四拾四聯隊滿洲守備として其大部分は九月三日に殘部即ち新入營兵は十二月三日に各當地を出發せしを以て第一出發當日には支部長始副長幹事等數名特に乘船地たる高岡郡須崎港迄出張し其の他の職員及會員の營門又は沿道筋若くは須崎港等各要所に於て歡送し第二出發當日にも亦幹事及事務員等數名須崎港に出張し其の他の職員幷に會員は前日同樣各要所に於て歡送せり尙出發の將校幷に兵士に對しては餞別として出發の都度手拭を贈呈せり其總數壹千八百貳拾參筋なりし

▲職員委囑幷解囑
幹事　委囑　一　解囑　二
委員　同　九　同　一〇

▲新入會員數　十四人（但し通常）

▲會員異動
轉出　四一　轉入　二八
內一等有功章者一　內二等有功章者一
退會　一一三　死亡　三七
內二等有功章者一
管內轉居　四〇　終身會員となりしもの　二七

▲職員出張　本會第八回總會及事務打合會へ參列の爲め事務員外幹事等數名東京へ出張せしめたり。

▲收受及發送件數
收受件數　三百六十五件
發送件數　八十八件

茨城支部

▲明治四十二年度事務成績

▲本年末當支部現在會員數は特別會員五百四十一人通常會員壹萬三百四十八人合計壹萬八百八十九人之を前年末會員數に比すれば千貳人の增加を見るに至れり

▲會費醵集狀況　本年度會費醵金總額六千百五十七圓六拾九錢にして內金貳百拾八圓九拾五錢は一時出金他は年賦會費の醵出に屬す

▲支部基本金　本年の收入は金六百拾五圓七拾六錢九厘前年度繰越金千三百七圓拾七錢六厘を併せ現在金千九百貳拾貳圓九拾四錢五厘を翌年度に繰越せり

▲支部救護金　本年度の收入は金千貳百參拾壹圓五拾參錢八厘にして本部配當定規救護金八百六拾壹圓及茨城縣より戰病死者遺族幷癈兵等の救護金として交付の受入金千圓に前年度繰越金貳千百九拾四圓七拾五錢壹厘及救護金返納受入金八拾參圓の合計は金五千三百七拾圓貳拾八錢九厘內本年度支出高金千六百參拾壹圓八拾貳錢を差引現在金三千七百三拾八圓四拾六錢九厘は翌年度に繰越せり

▲支部經費　前年度よりの繰越金千三百八拾七圓五拾錢三厘本年度收入金貳千三百八拾貳圓四拾五錢合計金參千七百六拾九圓九拾五錢三厘にして內支出金千八百七拾參圓七拾七錢五厘差引現在金千八百九拾六圓拾七錢貳厘は翌年度に繰越せり

▲遺族癈兵の狀況　東茨城、西茨城、鹿島の三郡に於ける各町村に在住の遺族及癈兵救護上に於て必要を感じ各戸に就き生活の狀況を取調べたり。

山梨支部

▲明治四十二年度事務成績

▲互禮會　一月七日新年互禮會並添田副長の送別を兼ね午后一時より開會支部長以下三十餘名參會頗る盛會なりき。

▲軍隊歡迎　四月二十一日より二十三日に至る三日間を以て步兵第四十九聯隊入峽に付支部長並會員は甲府停車場及便宜各驛に歡迎したり。

五月一日步兵第四十九聯隊は同聯隊戰病死者の招魂祭を執行せられ當支部長始め各幹事を招待せられたるに付き參列したり。

▲會務擴張委員　八田一精氏は會長の命を承け會務擴張の爲め來着せられ其請により各幹事を支部長邸に召集し八田委員より本會長の希望を傳達し且つ會務擴張の急務なる事及其他急要なる事項等詳細演述せられたり。

▲幹事會　七月十日幹事會を開催數十名參會支部長顧問參與主事は事務取扱更新の事情を述べ且つ多年會務に盡力せられたる勞を謝し其他諸般協議する所ありたり因に本會は三十七八年事件の功に依り御下賜の銀杯披露會を兼ねたり。

▲細則制定　八月一日付を以て當支部は細則制定に基き從前の職員は總て解託すると同時に夫々其功績を表賞し而して更に二百有餘名の職員を囑託し僅か一年間に從來の事務取扱手續を一新して其擴張を計りたり。

▲事務所更新　前述の如く當支部及幹事部事務取扱細則を制定發表し同時に各郡役所內の事務所を廢し更に幹事部を新設して幹事部長顧問並事務員を囑託し又各町村長に委員及縣下名望家の夫人若干名に幹事を囑託し各協力して會員の進退會費の徵收其他諸般會務を進捗完全ならしむるの方針を定めたり。

▲定期救護　從來救護配當金の不公平の非難もありたるを以て今回は遺族癈兵等の貧富生活の程度を十分調查したる上遺族癈兵現況調查台帳を作製したり。

▲會員　特別會員三百六十四人通常會員三千四百三十四人合計三千七百九十八人なり。

▲會費　本年度收入額金二千七十七圓四十錢にして頗る少額の如くなるも幹事部新設以來半ケ年の活動に依りて得たるものなれば又以て各幹事部の盡力大なるを見るべし。

富山支部

▲明治四十二年度事務成績

▲會員　本年中の增募に係る會員數は特別五十一人通常千三百五十八人合計千四百九人にして年末現在會員數特別千百三十二人通常一萬四千六百六十一人なり。

▲救護　本年度本部配當救護金貳千參百六拾七圓支部救護金千七百貳拾圓五拾九錢計金四千八拾七圓五拾九錢の內金貳千參百六拾七圓を同年十二月遺族及癈兵者四百八拾六名に贈與し（其內譯は金拾五圓一名金拾壹圓二名金拾圓四名金九圓二十名金八圓十四名金七圓四十一名金六圓七十四名金五圓五拾四名金四圓五十七名金參圓五拾錢四名金參圓百三名金貳圓三十六名金壹圓二名なり）伏木町外六分區總會の際慰問料として金百六拾參圓を百六十三名に又富山市に於て金六拾七圓を十七名（金五圓八名金參圓九名）に臨時救護として贈與したるの外富山授產場へ金四百四拾八圓魚津授產場へ金百五拾圓を補助し尙本部教養所へ收容せる孤兒二名の旅費金參拾八圓拾四錢を要し殘額金百五拾壹圓七拾七錢は支部救護資金に組入れ蓄積せり。

▲事業の概況　富山市內職員新年祝賀會一回、同市幹事會一回、幹事部顧問會一回、評議員會一回、幹事部內分區總會七回、幹事部長會議一回を開く、其他支部內より二名の兒童を本部教養所に入所せしめ、步兵第六十九聯隊第十中隊韓國派遣に付ては富山市職員は富山停車場にて歡送せり。

尙又、九月二十九日　皇太子殿下行啓に付支部よりは絹モスリン一疋友仙新モスリン一反木綿縞一反魚津授產場製品生木綿一反を又富山授產場々員より人形洋服一着を獻上せり。

▲囑託及解囑　支部副長一名、幹事部長四名、同顧問四名の囑託、幹事部長二名同顧問二名の解囑あり。

▲分區表彰　十二月二十二日分區委員及幹事全般に功勞感謝狀を發す。同二十八日左記優良分區に對し銀杯を贈與し之を表彰せり。

上新川郡太田村分區　中新川郡大森村分區
下新川郡片貝谷村分區　同郡生地町分區
婦負郡千里村分區　射水郡伏木町分區
氷見郡藪田村分區　東礪波郡城端町分區
西礪波郡福光町分區

▲年醵金　本年度中會員年醵金納入高は九千八百五拾六圓八拾錢にして米價の下落は商工業の不振となり本會に影響する所尠少ならず爲めに昨年度に比し約八割七分の收入に過ぎざりしは甚だ遺憾なりき。

▲佩有功章者　本年末現在一等有功章佩用者一名二等同十五名三等同三十一名合計四十七名なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第二百五號附錄

侯爵夫人渼子　嫡男利建氏　前田利爲侯

本會名譽會員 有栖川宮慰子殿下
（前田侯伯母君）

本會評議員 公爵夫人二條洽子
（前田侯大伯母）

本會會長 子爵夫人岡部坻子
（前田侯大伯母）

本會理事 公爵母堂近衛貞子
（前田侯伯母）

明治四十三年七月廿日發行（每月五日二十日二回）
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 竹内貞三　發行所 麴町區牛ヶ淵愛國婦人會發行
印刷所 東京市本所區番場町四番地 凸版印刷株式會社分工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

0. 206.

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN